

# みんなのひろば

## 視点

エピテーゼ製作で一番多く依頼が来るものは何かとよく聞かれます。皆さんは想像がつかますか？ 弊社への一番多い依頼は乳房切除による乳房エピテーゼ。2番目は耳や鼻などのパーツではなく顔面や手足の皮膚の一部分、3番目に指のエピテーゼです。特に乳房エピテーゼはエピテーゼ製作物全体量の7〜8割を占めています。

年々国民のがん罹患率は高くなっています。中でも乳がん罹患率は女性の全がん罹患率の21%とされています（公益財団法人がん研究振興財団、2016年がん罹患数予測）。がんと告知された時点で頭の中には死がよぎり、不安な日々を過ごすことでしょう。さらには乳房切除を余儀なくされた方々の身体の一部を失う喪失感。当事者でなければ分からない苦しみ、悲しみが襲い精神的にもダメージが大きく鬱状態に陥ってしまう方もいらっしゃいます。

乳がんと闘い、さまざま治療を続けながら社会復帰をされる方が多くなった一方、がん切除手術が原因で欠損に悩んでいる方が多くいらっしゃること事実です。お体の欠損による精神的なダメージは乳房切除患者さんに限りませんが、同じ女性として乳がんを患い、乳房を切除した方

々の気持ちを考える  
と決して人ごとでは  
ないのです。私自身  
も同じ立場になる可  
能性があるのです。  
仕事柄、乳がん経験者とお  
話することが多いのです  
が、大多数の方が怖くて手術



高崎市片岡町

けいこ 圭子

はぎわら 萩原

歯科技工士

### 乳房取り戻す選択肢に

らっしゃるくらいです。何らかの原因でお体に欠損が生じた場合、今までは「欠損したまま」か「再建手術での修復」でした。エピテーゼという第3の選択肢が増えたことにより、乳房を失った方々でも再建手術より簡単に乳房を取り戻すことができるようになった。傷痕をカバーし、元の膨らみがよみがえるのです。ですが取り戻すといってももちろん本物ではないのでエピテーゼでは満足できない方もいらっしゃるのことは当然のことです。

近年では乳房再建手術を選ぶ患者さんも増えてきました。そんな中、乳房再建ネットワーク「シャロン前橋」代表の篠原敦子氏は「乳房再建手術をしたくても手術にためらう人もいる、再建したくてもできないケースもある。そんな方々に乳房エピテーゼは乳房を取り戻すもう一つの再建と言ってもよいのではないかと」と話された時がありました。

決して血が通うことがないエピテーゼを「身体の一部」として取り上げてくださったことで私の士気も上がり、今後も技術の向上を目指し、エピテーゼを必要とする方々のために日々努力を重ねようと強く思いました。

乳がんとエピテーゼ

後のご自身の胸部の傷痕を見ることができません。エピテーゼ製作の際に「手術後こんなにまじまじと見たのは初めて」と話される患者さん多い

【略歴】歯科技工士の傍らエピテーゼの技術を学び、2011年に萩原歯研・エピテーゼ製作室メディカルラボKを開設。製作技術者の育成にも取り組む。高崎市出身。